聖年の集い　宮崎地区の小教区からの意見集約

教会内の活動、コミュニケーション、信仰生活、信仰養成、福音宣教、歴史から学ぶ
以上の６つの項目に大別して、その項目の中で似通った意見をまとめております。
意見全体でおよそ500件の意見が上がりました。

Ⅰ　信仰生活　(256/500)

①　信仰によって助けられたこと　(22/256)

これまで生きてきた中で、自身が信仰によって救われ、助けられ、力づけられたことについて挙げて頂きました。私たちキリスト者は、私たちに命を与えた方を信頼して生きています。「信仰を持っていること自体に、自身が生きる希望を持っている。」、『始めて教会に行った時「よく来てくれた」との言葉で「来て良い場所」だと思った。』、
「若い頃、信者であることの表明は恥ずかしかったが、主人の洗礼（葬儀）をとおして皆が認めてくれた。」、「今まで健康な時は何気なく頂いていた御聖体だったが、手術後ミサに与かって頂いた御聖体に心からありがたいという気持ちが湧いた。」、「今回の分かち合いに喜びを感じた。」、「ミサ・祈り・聖体をとおして仲間意識を感じることができた。」、「自身が信仰に基づいた社会生活を送ることで、社会に何らかの良い影響を与えられるはずだとの希望がある」、「どんな祈りでも聴いてくださる神様がいる。」以上の体験が挙げられました。
命の源である神さまに向かう時に、自分の命は強められ、輝いていきます。希望の源であるイエスに信頼して、大きな旅であるこの人生を、希望のうちに過ごしていきましょう。

②　不安・残念に感じていること　(14/256)

信仰生活を送る中での、不安、悩み、残念に思い、変えたいことを挙げて頂きました。その中身は「どうして戦争をはじめとする争いが終わらないのか。彼等も素晴らしい宗教を持っているのに、人間のエゴによって争いは絶えない。聖地おいても同じである。」、「家族全体での信仰生活が崩れつつある。我が家で信仰継承はされそうにない。」、『「信徒の時代」と言われているが、若者が少なく、出来ることが限られてきている。』、「時代の変化に戸惑う。教会に特別な希望があるのか？」「教会で言われることが漠然としている。」、「信徒相互の高めあいや、外に向かう働きかけが足りていない。」、「現実の生活が厳しい、息子は教会から離れている」、「個人主義の強さに不安になる」、「教会離れの加速」、「様々なものが提示される現代にキリスト教が埋没していないか」、「死にたいくらいに悩んでいる人がいる。」というものでした。

これらの事は受け止めるべき問題であるとともに、ここには教会の外にある要因と、中にある要因、二つの要因が存在することが分かります。私たちが直接かかわることが出来る「中にある要因」と、私たちが外に向かって発信して少しずつ変わっていく「外にある要因」です。大きく難しい課題ですが、聖年の集いで見つけてきた希望、皆で行った「霊による会話」によって諦めずに行動していきましょう。私たちをいつも支え、救おうとする父、イエス、聖霊がいらっしゃるのですから。

③ 今まで続けていること、これから行いたいこと　(220/256)

これまで行ってきたこと、そして分かち合いの中で上がってきた、これからやってみたいことを挙げていただきました。今回この項目が、群を抜いて多いものとなりました。それほどに皆さまが、教会の未来を真剣に考えているという証拠だと言えます。文字数にして八千字、ページ数７ページにも及びます。その中でも目を引いたものを挙げてまいります。
※今回の中心とも言える部分であるため、詰めずに表示しています。
「現代の教会に必要なことは、多様性の中でどう向き合うか？信仰の深い信徒になること、情報を共有すること、苦しむ人に目を向けることなどが考えられる。」
『「希望は欺かない」が、「希望するだけ」では実現しないことにも気付きを得た。』

「価値観の広がっている時代に信仰を守る事には心の力、強さが必要。」
「教会に来ると祈ることで目に見えない力を感じる。何かに導かれる。」
「神様が先に希望を与えて下さる。私たちはそれをまずしっかり受け止めよう。」
『「信じる」神様を信じ、その導きに素直な心で従う。困難があっても殉教者たちに倣い、支え合いながら忍耐強く、希望をもって進む。』
「つながりはもとめているけど、足を運ぶことが難しい。足を運びたくなる「ともに歩む」共同体をつくっていこう。」
「信者でない子どもたちにも聖霊の風が吹いている。」
「司祭に頼りがちだった宣教について何かしなければと思うことができた。」
「宣教ということについてあまり考えてこなかったが、社会生活の中でも信仰について伝える場面があったのではないかと思う。」
『「ともに歩む」ための環境条件を整えるためにも、相互理解の為の「分かち合い」が重要だと確信。』
『今回参加できなかった信徒も巻き込んで「共同体としてのあり方」を考えることを通じて、「ともに歩む」が実現でき、それを教会内外での行動実践に繋げていくことが重要だとの共通の気付きを得た』

Ⅱ　コミュニケーション　(115/500)

①　挨拶について　(20/115)

日常生活でも基本的な行為である挨拶についての意見が上がりました。相手の存在を意識し、挨拶によって共同体の好ましい関係を構築するのが目的です。まずはお互いに挨拶をしましょう。名前を覚えて、おしゃべりをしましょう。声掛けのきっかけを持てず、相手の名前も知らない現実がありました。外国の方とでも、翻訳機やアプリ、簡単な挨拶を調べることも可能です。相手の国の言葉で挨拶するのは、大きな歩み寄りではないでしょうか。

②　移住者との関わり　(25/115)

これからの時代、今以上に教会に移住者が増えてくることは間違いありません。その中で私たちはどんな準備、関りが必要になるでしょうか。まずは受け入れの姿勢が不可欠です。それは具体的には「母国語は違っても、お互いに話す機会を作る」、「国際交流を深める」「言語を出来る範囲で習得してみる」ことです。簡単なところからなら、英語の歌を練習しても良いでしょう。

また、移住してきた方への支援も忘れてはなりません。トラブル（感染症、職場からの搾取）によって生活が不安定な人がおり、その人たちを援助につなげる必要があります。情報を受け取るのも、日本語のみでは苦労することが考えられます。ミサの言葉、説教の翻訳、教会報の日本語版、お知らせ、イベント等、これらを SNS などを使って、それぞれの言葉で発信していく必要があります。

③　発信の重要性と、取り組み　(21/115)

現在、通信機器や技術の進歩によって、情報発信は多様に、そして大量になりました。私たちの教会においてどのような情報発信が求められているのでしょうか。時代に合わせたやり方が求められています。いくつかの具体例を挙げます。「ホームページの開設、リニューアル、こまめな更新」、「様々なメディアに、クリスマスや復活節の広告を出せないか」、「教会の紹介となる動画を作成してはどうか」、「メールの返信や、各種アプリの活用」が考えられます。

④　分かち合い、意見交換の場を設けて理解を深める　(49/115)

諦めずに相手と関わり続ける事が、コミュニケーションの中心だと言えます。挙げられた意見を確認します。「分かち合いの場を持つ、これまでの分かち合いを継続させる。」、「ミサの後の関りに救われる、生きる力をもらう」、「人が優しくされるのを周りは見ているし、これによって自分も習うことが出来た」「子供の意見、希望を聞き取りしてはどうか」、「子供を通して、大人も関係づくりが出来ると良い。」、「カトリック学校との繋がりをも

ってはどうか」などの意見が見られました。コミュニケーションとは一度限りのものでは無く、連続していくものです。簡単なことからで良いので、日ごろから意識を持つことが重要です。せっかく教会に来たのですから、ミサだけではなく、同じ信仰を持つ仲間と関わってみてはいかがでしょうか。そして、仲間との出会いの場所として教会が活用されることを望みます

Ⅲ　信仰養成　(50/500)

①　子どもの信仰養成について　(31/50)

教会の将来とも言えるのが、教会の子供たちです。彼等への信仰教育、信仰養成について挙げられた意見を見ていきましょう。「家庭教育と信仰の育成」、「日曜学校、または年齢に応じた聖書の教え」、「現在は親が子に信仰を伝えていない」、「親が神への信仰を育む」などが挙げられています。家庭における信仰養成と、教会における信仰養成が二つの柱となっています。まず第一に家庭における信仰教育なしには、信仰養成は望めません。保護者も子供に信仰を伝えながら、自身の信仰を深めていきます。

②　自分自身の信仰養成について　(19/50)

信仰養成は、終わりなくいつまでも続いていくものです。どのような形で行われるのでしょうか。

「親として私たちは子供たちに神について教える必要があります。」、「親が子供たちに信仰と教会の慣習を紹介するよう奨励する」、「親には責任がある」、「親がそもそも来ていない」、「司祭に協力してもらう」

これらの事から、自分に関わる相手に信仰を伝えていく中で、自身の信仰が深められることに繋がっていきます。加えて、協力者としての司祭を活用する事が挙げられています。各共同体に必要な、霊的指導を司祭に相談することは有益な事です。

Ⅳ　教会内の活動　(38/500)

①　教会のお金に関する事　(16/38)

教会を運営していくにあたって、維持費、寄付を頂くことは避けて通ることが出来ません。新しく教会のメンバーとなった方々にどのように維持費等を納めて頂くかが課題となります。具体的には、若者、外国の方にどのように要請するかがポイントです。まずは少額でも良いので、お願いしていく必要があります。

そのうえで、お金を受け取る教会側も納得していただくための対応が必要となります。教会の支出が何に使われているのか、支出の透明性が保証される必要があります。

また、信徒の皆さまの所属意識を高める関りが必要となります。所属教会がどのような状況にあって、何がこれから必要になるのか、話し合いの場を持ち、共有していく必要があります。

そして、お金は大切なのは事実ですが、この事ばかりに終始しないよう努めなければなりません。教会の中心は神と人の関りです。神を忘れてはいけないためにも、会議の前後にしっかりと神への祈り、導きを求める必要があります。最後に、これらの教会での会議が一部の人たちによって進むことが無いよう願います。全体との交流、意見集約がなされますように。

②　今後の財政問題と人材　(15/38)

維持管理について、一部の人だけでなく全体に共有することも大切です。教会を飾るために様々な努力をされる方に大きな感謝を感じます。皆が豊かな心持で教会を利用することが出来ます。一方で、これらの装飾や花等は、手入れを必要とします。そのため状態を保持するために、本人、あるいは当番を決めて関わる必要があります。

そして、教会を皆が気持ちよく使うためには、清掃が不可欠です。出来る範囲で、皆が協力できる体制を整える必要があります。また各種役員の後任の選定が、なかなか決まらないなどの問題も挙がっています。

③　イベントを行う必要性と工夫　(7/38)

「教会に関わるいろいろな国の子供たちと、楽しいことをしてみたい。」、「英語や他の母国語の歌をみんなで歌

ったり、その国のごはんを食べたりしてみたい。」、「食事、音楽、挨拶」、「未婚者のイベント」などの教会で楽しく交流できるよう、催し事を計画する提案がありました。中には、『別の団体の「炊き出し」に参加している。』との声もありました。小教区レベルで、「今できることを探して」機会かもしれません。実際に動くことの難しさの報告も挙がっております。

Ⅴ　福音宣教　(29/500)

　イエスが最後の言葉として、福音を宣べ伝えるよう説いた通り、教会の本質は福音宣教にあります。この福音宣教について挙げられた内容を確認します。

「地域と繋がっていくこと」、「地域の人に知ってもらう」、「地域社会への参加」、「地域のボランティア活動への参加」私たちの教会は地域に根差しております。同じ地域の方は、私たちが最初に関わっていく人だと言えます。私たちの教会に来てもらうことだけではなく、私たちも地域社会に出て行くこと、双方向性の関りが必要です。

「宣教ということについてあまり考えてこなかったが、社会生活の中でも信仰について伝える場面があったのではないかと思う。」『メールを打つとき、最後に「お祈りしています」と書く。』福音宣教は大仕事ですが、その機会は沢山ありますし、小さなことから始めることが出来ます。

「信徒相互の高め合いや、教会外部に向かっての働きかけや、巻き込み努力が不足教会の行事に参加する、他の友人を巻き込む。」にあるように、熱心さが必要な時もあります。しかし、教会は信じる人の集まりです。仲間と共に協力するなら、難しさは減るのではないでしょうか。

　様々なアプローチが考えられます。オンラインでつながる事も出来ます。しかし、「ネットでの宣教活動は便利で簡単な方法だが、発信するには注意が必要。フェイクにならないように。」する必要があります。皆と相談しながらやってみることは、いつになっても変わらないのでしょう。

Ⅵ　歴史から学ぶ　(12/500)

　私たちには身近な信仰の手本であり、先輩である方がいます。苦しい時代を耐え抜いてきた先輩たちの姿に倣う部分は少なくありません。「迫害を受けながら信仰を繋いだ先人のおかげで、現在の私たち信徒がいる。」からです。

「宣教師たちは病院や孤児院など社会的な活動を通して多くの人の信頼を勝ち取り、キリスト教にも好感を持ったであろう。」と考えられています。それでは私たちキリスト者は、現代に何を提供できるのでしょうか。

『当時はキリスト教が「新しいもの」であり、憧れのような気持ちで広まっていったことも考えられる。「上辺の新しさ」ではなく「人間の根本を新しくする」キリストの教えをもっといろいろな人に知ってもらう必要がある。』当時の生活は今と比べれば、不安定だったようです。育てることが出来ないため、生まれてきた子供の命を絶ってしまう悲しい現実がありました。

　現在は、当時に比べれば安定した暮らしがあります。しかし、戦争、自死、孤独、さまざまな問題が山積みです。命が壊れる現代に、私たちが出来ることを探す必要があります。「キリシタン時代に明白だった迫害などの苦しみとは異なる現代の苦しみを、教会はどう癒すことができるかを考えていきたい。」

　この現代にも、時代を超えて通じる真理があります。すべて人間に価値があり、損なわれていい命などない事です。命は、神が与えたものだからです。神が人間を救おうと望んでいること。この事を私たちは伝え続ける使命があります。

最後に

「神様が先に希望を与えて下さる。私たちはそれをまずしっかり受け止めよう。」

私たちが喜びと希望のうちに、人生という旅の巡礼者でありますように。